

科目責任者 大石 一彦 (薬理学教室)

■ 教育目的

本講では、ホルモン関連薬、代謝性疾患治療薬、感染症治療薬、抗悪性腫瘍薬などの薬理作用・機序を中心として講義し、それらの治療薬の有効性・安全性の薬理的基盤を学習していく。

■ 準備学習（予習・復習）

予習：講義テキスト・参考書の該当箇所を目を通しておく。

復習：講義テキスト・参考書・演習問題等を活用し、講義内容を復習するとともに、関連事項について調べ知識を整理する。

■ 授業内容

No.	項目	授業内容	SBO コード
1	ホルモンと薬	ホルモン分泌異常症の治療薬	C13 (3) -1-1
2	//	糖質コルチコイド代用薬	C13 (2) -1-2
3	//	性ホルモン代用薬および拮抗薬	C13 (2) -1-3
4	代謝系に作用する薬	糖尿病治療薬	C13 (3) -5-1
5	//	脂質異常症薬 高尿酸血症・痛風治療薬 カルシウム代謝調節・骨代謝に関連する治療薬	C13 (3) -5-2 C13 (3) -5-3 C13 (3) -5-4
6	感覚器に作用する薬	眼に作用する薬物 耳・鼻に作用する薬物 皮膚に作用する薬物	C14 (4) -4-2,3 C14 (4) -2-2 C14 (4) -3-2,3
7	感染症と薬	抗菌薬	C14 (5) -2-1
8	//	抗原虫・寄生虫薬、抗真菌薬	C14 (5) -3-1 C14 (5) -4-1
9	//	抗ウイルス薬	C14 (5) -5-1
10	悪性腫瘍と薬	抗悪性腫瘍薬	C14 (5) -8-1-8
11	//	//	//
12	//	//	//
13	医薬品の安全性	薬物相互作用	C13 (1) -1-7
14	//	薬物依存性	C13 (1) -1-8
15	//	副作用と毒性	C13 (1) -3-1,2

■ 授業分担者

No.1～3、13～15：大石 一彦、No.4～5：菱沼 滋、No.6～12：野澤 玲子

■ 成績評価方法

学期末試験（90％）および出席状況・授業態度（10％）で総合評価を行う。

■ 教科書

必要に応じてプリントを使用

■ 参考書

『図解表説 薬理学・薬物治療学』菱沼 滋 著（ティ・エム・エス）

『薬理学－医薬品の作用』竹内 幸一 他 編著（廣川書店）

『NEW 薬理学』田中 千賀子 他 編著（南江堂）

『グッドマン・ギルマン薬理書（上・下）』高折 修二 他 監訳（廣川書店）